

## 学生島活プロジェクト@家島

飯尾菜々香(木村敏文研) 板倉菜生(木村敏文研) 盛岡志野(木村敏文研)  
有川菜々美(三田村研) 宝本真凜(奥研) 山崎彩華(木村敏文研) 藤井陽(木村敏文研) 太田尚孝

キーワード：空き家活用，家島(離島)，地域コミュニティ，地域おこし

### 1. プロジェクトの概要

離島において、人口減少と高齢化が顕著に現れ、深刻な社会問題となっている。本PJの対象地である瀬戸内海東部の播磨灘に浮かぶ家島は兵庫県姫路市の諸島であり、人口減少に伴う空き家の増加が懸念されている。そこで、本PJでは家島活性化の促進を基盤とし、空き家再生について検討する。

PJの目的は、①家島における空き家の現状を把握すること、②空き家問題の深刻さと空き家再生の可能性を理解し検討すること、③実際の体験による学びを得ることである。このPJを通じて、大学生という立場であっても離島での問題解決に携われることを理解すると共に、建築を学ぶ学生の視点から家島の課題に取り組み、地域おこしの手助けを行った。

### 2. 活動紹介

本年度は新メンバーを迎え昨年度からPJの拡大によって継続することができ、5月30日に最初の活動として今後の方針を決定した。

6月18日にPJ対象物件である「宮ラボ」を訪問し、現地内覧を行った(写真1)。家島に初めて訪れるメンバーもいたことから、島巡りと島の特色を学び、内覧では間取りの確認や問題点を探った。洗面所が無いことや玄関の段差が大きいなど構造上の問題と、壁や天井に釘や汚れがあるなど宿泊する上での環境下を整える必要があると分かった。既存の内装を残しつつインテリアや小物によってどういった雰囲気を作り出すかについて、中西氏に伺った内装の詳細をもとにテーマを決めた。

8月3日には「宮ラボ」で実際に配置される家具等の内装計画について、PJメンバー間による共有と中西氏からのフィードバックをいただくミーティングを実施した(写真2)。提案において家島の特色を元に、ターゲットをしぼることから始めた。家島が海に囲まれ自然に溢れていることから、「ジブリ風-木に囲まれた落ち着いたある空間-」と「海カフェ風-海が見え、感じる事が出来る空間-」の2パターンで進めていくことが決定した。メ



(出所)筆者撮影  
写真1 「宮ラボ」の現地内覧の様子



(出所)筆者撮影  
写真2 内装計画ミーティングの様子

ンバー内でグループに分かれ、それぞれのコンセプトに沿ったテーブルや照明を模索し意見を出し合った。デザインだけでなく家具の利便性や予算面を考慮し、提案を見直していった。

9月4・5日には、空き家再生の実践例である「家島ハレテラス」で1泊2日の宿泊体験を行った。1日目には中西氏指導の下空き屋修繕のDIYを行い、2日目は島のアクティビティであるカヌー体験に参加し、島の魅力の発信方法を検討した。DIYでは、壁紙剥がしと壁面の釘抜き、壁・天井へのペンキ塗りを行った(写真3)。白く塗ることで約4.5畳の和室と台所が全体的に広く見えるようになり、採光条件も良く非常に明るい印象へと変化した。空き家再生について知識だけでなくノウハウを体験し身につけることができた。また宿泊体験では、家島周辺で採れる鮮魚の刺身盛り合わせやフライを特産の塩でご馳走になり、浜辺沿いでカヌーに初挑戦した。家島でしか味わえない非日常を感じることができた。この体験を通し島の魅力を、観光パンフレットの作成やスタンプ

ラリー等のイベント実施、学生による SNS の運営によって発信できるのではないかと、今後の取り組みとして検討したいと考えた。

これまでの活動について、12月7日に開催された環境人間学フォーラムにてポスター発表を行った(図1)。約50名の生徒や教員からPJや活動、家島に関する質問が寄せられ、ポスター発表と質疑応答を通じてよりPJに対する理解を深めることができた。多くの生徒がPJについて興味を示し今後の活動への参加に繋がるきっかけになったと考えられる。

また12月20日の姫路工学キャンパスで行われた現代都市社会の講義内においても、昨年度からの活動を紹介する機会が得られた。主に大学1年生が対象の講義であり、活動の紹介とともに大学という環境をうまく利用し学生が主体となって取り組む大切さも伝えた。30分という発表時間の中、建築分野に全く知識のない学生に向けたスライドの工夫や、内容が分かりやすく聞いていて興味を持ってもらえるような構成立てを意識した。後日受講生からは、「聞いていて楽しかった」「始めるきっかけは簡単な理由からで良いと分かった」「楽しむだけでなく活動から学びを得る一面もあるというリアルな話が聞けて良かった」など、前向きなコメントが寄せられた。本PJに対する第三者からの評価を聞くことができ、改めてPJの意義を見出すことができた。



(出所)筆者撮影  
写真3 DIYにおけるペンキ塗りの様子

### 3. まとめと今後の展望

今年度の活動では冒頭で示したPJの目的を見据えた活動の実施に加え、昨年度からの目標であるPJの拡大を実現した。具体的にはメンバーの増員と活動幅を拡大したことが挙げられる。メンバーの増員に合わせて昨年度の活動で得た情報やDIYスキルを伝承し、さらに空き家再生の際の改修作業の幅を広げることができた。また活動の拡大については、今後宿泊施設として貸し出し予定の空き家物件「宮ラボ」の計画・改修に携わり、昨年度よりもより実践的に空き家再生を考えることができた。さらに12月には環境人間学フォーラムでのポスター発表と講義内での活動紹介に参加することで1.2年生に向けても本PJのねらいと意義を発信した。活動自体から学びがある一方、ポスターや講義等で外に発信するという経験ができたのもPJの醍醐味であると実感した。今年度の活動としては2月7日に「宮ラボ」の家具搬入作業を実施し、施設の完成を目指す。

#### 謝辞

本PJの実施にあたり、ご指導、ご協力いただいた中西和也氏(家島コンシェルジュ)、太田尚孝先生、木村敏文先生および地域のみなさまに心より感謝申し上げます。



(出所)筆者作成

図1 環境人間学フォーラム・ポスター